



脇本海岸 渚だより

NPO法人
脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会
創刊号（期間：2022年1～3月）

NPO法人ウミガメ・シロチドリ会設立（2021年12月23日登記）

2021年11月7日のNPO法人設立総会において正会員18名による承認ののち、市の設立認証を経て法人登記が完了しました。

脇本海岸の渚の景観と絶滅危惧種（ウミガメ、シロチドリ）などの動植物を守るため活動しますので皆様のご意見とご協力をよろしくお願い致します。

（右；NPO法人設立総会の様子）



（1月）ウミガメの孵卵場整備

昨年2021年は、ウミガメの上陸はわずか1回しか確認できませんでした。その産卵場所が波打ち際に近く、高潮のため浸水し続け、残念ながら卵は全滅してしまいました。今後このような事態を避けるべく、波のこない場所に卵を移設するための孵卵場を整備しました。愛宕川河口付近の堤防近くと折口川河口付近の防波堤上に波板で囲ってあります。ウミガメが安心して産卵できる砂場が環境の変化により急激に減少しています。この孵卵場がいっぱいになるほどウミガメが上陸してくれることを願っています。



孵卵場1（愛宕川河口の堤防付近）



孵卵場2（折口川河口の堤防付近）

（2月）埋もれていた「三笠海岸の碑」の周辺整備

脇本海岸は阿久根県立自然公園として昭和28年（1953年）3月31日に鹿児島県で最初の県立自然公園に指定されました（藺牟田池、坊野間、吹上浜金峰山の3地域も同日に指定）。その記念の石碑が長い間、防風林の藪の中に埋もれていましたが、当NPO法人で藪

を払ったことで、再びその姿を現しました。当時の海岸の名称は「三笠海岸」だったようです。川北技研前の防風林にあるので、訪問して69年前の海岸に思いを馳せてみたらいかがでしょうか？

- ・石碑の裏側には何が書いてあるでしょうか？是非現地でご確認ください。
- ・昭和20～40年代の松林と海岸の写真を探しています。お持ちの方はご連絡ください。



(2月) 脇小海岸清掃イベント



2月28日、脇本小学校の全校生徒186人による恒例の海岸清掃が行われました。そのイベントにおいて、3年生以上の各学年より5人が選ばれ、合計20人が当NPO法人の支援のもとに砂浜のマイクロプラスチックの回収に取り組みました。世の中でも回収方法は試行錯誤の段階ですが、今回の回収方法は有効であることが確認できました。生徒は清掃後に浜遊びをして、コ

ロナ禍で鬱屈した生活から解放されたひと時を楽しみました。(当イベントは南日本新聞3月6日号に掲載されました)

(3月) 海岸の景観を取り戻す清掃イベント

当初2月に予定していましたが、コロナまん延防止期間と重なり、3月の20日に再設定しました。しかし、前日に脇本地区でコロナ陽性者が増加との情報を得て、イベント当日の朝に急遽中止をせざるを得ませんでした。イベントは中止しましたが、今回の目的の一つである堤防の巨大な落書き(3 x 10m)消去だけは、NPO法人の理事会メンバーと下村集落役員の8名で、ワイヤブラシに加えて電動のグラインダーや高圧洗浄器を投入して、午前中3時間かけてようやく絵が薄くなる程度にはできました。今後も景観を取り戻すイベントを開催しますのでご支援よろしくお願ひします。



消去前



作業中



作業完了